

マンガ・デザイン系分野における教育系産学連携活動
～京都信用金庫・セメントプロデュースデザインと京都精華大学の連携事例～

南了太・米本昌史・中井咲貴子（京都精華大学）

はじめに

近年、PBL 教育の一環で学生のアイデアを元に企業が商品化する動きが多くみられる。これらの活動成果は、例えば、日本経済新聞朝刊「キャンパス発 この一品」や「大学発商品図鑑」ⁱなどを通じて見るることができる。左記の活動成果を見てみると、これまで産官学連携分野で積極的に推進されてきた、理工・生物系分野のシーズをベースに高度な科学技術を用いた製品やサービスでなくとも、十分に社会に対して価値を提供していることが分かる。本発表では、商品開発に向けて、マンガ・デザイン系分野の学生が企業とアイデア創出を行った一事例を紹介するものである。

京都精華大学 社会実践力育成プログラムとは

京都精華大学は、2021 年より教学プログラム改革の一環で「社会実践力育成プログラム」を展開している。本プログラムは、在学期間中から社会と連携をし、実践力を身に着ける目的とし、「学びを社会に活かす」ことをコンセプトとしている。22 年度は 62 のプログラムⁱⁱを用意し、学生に対して、①大学連携プログラム、②インターンシップ、③海外ショートプログラム、④国内ショートプログラム、⑤産官学公連携 PBL プログラムのいずれかを履修することを推奨している。特徴的なのは、5 学部（芸術学部・デザイン学部・マンガ学部・国際文化学部・メディア表現学部）3,500 名を対象とし、学年も学部も固定せず横断的であり、クォーター制（8 週間）で実施している点である。2Q に開講した 33 プログラムには 421 名の履修登録があるなど大規模に推進をしている。理工・生物系分野の学部を持たない本学は、一般的な産官学連携に見られる技術開発のノウハウを有していない。そこで、①解決型（連携先の問題を何らかの方法で解決する形態）、②表現型（連携先に対して自身の制作活動などで表現する形態）、③提案型（連携先の問題を何らかの方法で提案する形態）、④調査型（様々な社会現象を調査する形態）のフレームワークから実践的な活動を行っている。

提案型産官学連携プログラムについて

京都信用金庫（本社：京都市下京区）と有限会社セメントプロデュースデザイン（本社：大阪市西区）は、2022 年度より京都信用金庫の顧客向けに商品開発講座「ANSWER」を開講している。本講座は、新商品の開発を検討している中小の製造事業者 8 社に対して、商品開発の視点からプログラムを提供するものである。具体的には、「全 8 回の講座では、はじめに自社の経営資源や強み、競合の取組など、徹底した現状分析を行った上で、商品イメージ、方向性の検討などの実践プログラムを経て商品企画開発に取り組んでいただきます。そして、事業規模や実力に応じ、販路や販売方法、つくれるもの、つくりたいもの、つくるべきものを検討し、参加事業者自身で商品企画を完成させていきます」というものである。ⁱⁱⁱ

今回、京都精華大学は「産学公連携 PBL プログラム 1（ハイブリット型：京都信用金庫/セメントプロデュースデザイン）」という 2 単位の集中授業で本講座の一部に関わった。以下、詳細を示す。

授業内容

今回、担当教員はデザイン学部の米本教授、国際文化学部の中井特任准教授、そして筆者の 3 名である。受講生はいずれも 2 年生で、デザイン学部 5 名、マンガ学部 1 名の計 6 名であった。授業場所は、大学や京都信用金庫本店や、2020 年に京都市役所近辺の一等地にできたコミュニティー複合施設「QUESTION」、自宅学習、オンラインなどを組み合わせ実施した。

図表 1 の通り、授業は、事前学習（オリエンテーションやマナー講座）と演習、事後学習（振り返り）で構成した。演習の一部として、上記の計 8 回の商品開発講座「ANSWER」の内、第 5 回の『コンセプト固め』（「自社の想い」や「志」を軸にビジョン設計を行う）と、第 6 回『商品企画①』（コンセプトを満たす事業〈商品/サービス〉を考える）に関わった。製造事業者は、飲食や服地卸、珈琲専門店、伝統工芸、イベントプロデュース業など多岐に渡った。

受講生は、各 1～2 名が製造事業者の担当となり、企業の取組や課題、業界の分析、アイデア

ブレストへの参加など様々な内容に従事し、実際に企業のアイデア創出の場に関わった。さらに本プログラムでは、製造事業者の商品開発に対して 100 案考えるという課題が出され、さらにその 100 案から 3 案に絞り事業者向けに発表を行った。

教員は、アイデア創出の支援やプレゼン技法の紹介、マナー講座、学生の進捗管理、主催者との調整などを中心に、本プログラムが順調に進むように支援を行った。

履修者に対しては、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」の 12 の項目^{iv}で事前・事後でどのように変化したかを 5 件法で主観評価した。6 名の回答がありその結果、主体性、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性の能力の向上が見られた。学生からは「今までに社会を見学することはあったが、実際に『触れる』ということは今回のプログラムが初めてだった。社会に触れたことで視野が広がり、今だけでなく将来を見据えて物事を捉えられるようになった」、「お店の思いや、課題、商品などただ企画を立てればいいだけではなく、リサーチすること、分析することなど商品が出来上がるまでにさまざまな工程が必要であることがとても印象に残りました。また、商品を販売していく、企画していくための方法や自分の知識を引き出しを増やしていくことの大切さを学ぶことができました」などの感想が聞かれ、教育効果の高い取り組みとなった。

図表 1 授業内容

構成	日程	時間	内容	場所
事前学習	8/2(火)	13:00-16:10	学生・教員顔合わせ・対面事前学習・ブレスト・自己紹介記入	大学
	8/8(月)	14:00-17:00	オリエンテーション ・紹介(京都信用金庫 30分) ・目的(セメント) ・自己紹介(各自) ・課題提示(セメント) ・企業担当分け等	京都信用金庫 QUESTION
演習	8/9(火) ~17(水)	各自裁量	対象企業の業界リサーチ	在宅
	8/18(木)	15:00-17:30	商品コンセプト決定	京都信用金庫本店
	8/25(木)	13:00-17:50	商品アイデア考案 100案	大学
	9/2(金)	15:00-19:00	チーム内アイデアミーティング (グループワーク) ・15:00-16:00 レクチャー(セメント) ・16:00-17:30 企業アイデアブレスト ・18:00-19:00 知財セミナー	QUESTION
	9/7(水) ~9(金)	各自裁量	ショップリサーチ	東京ギフトショー/ 京都市内(任意)
	9/15(木)	14:30-18:00	プレゼンテーション	QUESTION
事後学習	9/27(火)	13:00-17:50	最終案提出・振り返り	大学

考察

上記の、企業が行う商品開発講座と大学の PBL 教育を組み合わせること、より高い教育効果を生み出すことができる。企業においても新しいアイデアや気づきを得ることが期待され、企業の評判も高い。今回は、主催者の京都信用金庫とプログラム考案者の有限会社セメントプロデュースデザイン、事業者 8 社、大学の教員・学生が連携をすることで各社のニーズに応じた試みが可能になった。本取組は、マンガ・デザイン系分野における教育系産学連携活動の一事例として参考になるものである。

謝辞

本プロジェクト推進にあたり、京都信用金庫の荒尾元彦氏、大隅美沙氏、有限会社セメントプロデュースデザインの金谷勉氏、三嶋貴若氏、川村さりか氏に多大なご協力を頂いた。改めて感謝申し上げる。

ⁱ 大学商品図鑑 <http://hotozero.com/product/>

ⁱⁱ 京都精華大学社会実践力育成プログラム HP <https://jissen.kyoto-seika.ac.jp/>

ⁱⁱⁱ ANSWER 販路を見据える商品開発講座

<https://www.cementdesign.com/?portfolio=%e4%ba%ac%e9%83%bd%e4%bf%a1%e7%94%a8%e9%87%91%e5%ba%ab>

^{iv} ①主体性、②働きかけ力、③実行力、④課題発見力、⑤計画力、⑥創造力、⑦発信力、⑧傾聴力、⑨柔軟性、⑩状況把握力、⑪規律性、⑫ストレスコントロール力